

令和3年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立 清原東小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和3年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和3年5月27日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第4学年	国語	50人	算数	50人	理科	50人
第5学年	国語	41人	算数	41人	理科	41人

5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。

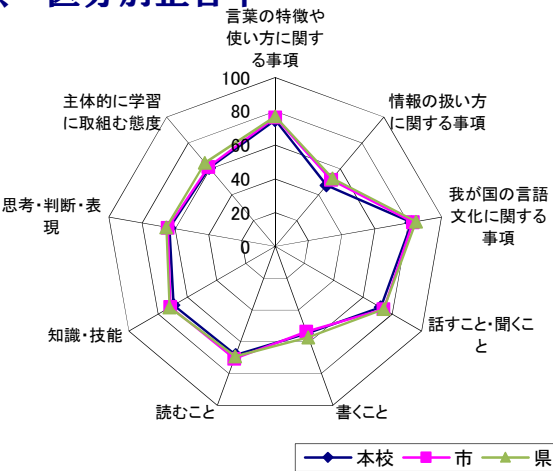
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。

- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立清原東小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	74.8	76.4	77.0
	情報の扱い方にに関する事項	47.3	51.5	52.7
	我が国の言語文化にに関する事項	82.0	82.8	84.7
	話すこと・聞くこと	72.0	74.1	74.2
	書くこと	54.7	53.7	57.2
	読むこと	68.3	70.7	69.2
観点	知識・技能	69.4	71.6	72.3
	思考・判断・表現	63.6	64.6	65.4
	主体的に学習に取り組む態度	60.8	61.6	64.7



★指導の工夫と改善

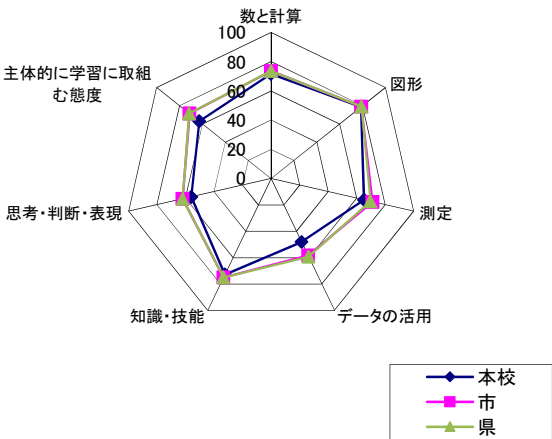
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	平均正答率は、市の平均よりやや低い。 ●第3学年に配当されている漢字を正しく読んだり、書いたりすることに課題が見られる。また、漢字の読みだけでなく、送り仮名を正しく書くことにも課題が見られる。 ●ローマ字で表記されたものを正しく読む問題に課題が見られる。	・学習した漢字を日常的に使う習慣を身に付けるよう指導する。 ・習っている漢字だけでなく前の学年の漢字も復習として取り入れながら、ノートを書く際も指導を工夫する。その際、漢字の読みだけを復習させるのではなく、送り仮名も正しく使えるよう併せて指導する。 ・身の回りにあるローマ字に触れるようにし、ローマ字を読むことに慣れさせていく。
情報の扱い方にに関する事項	平均正答率は市の平均よりやや低い。 ○国語辞典の使い方は理解できている。 ●文中に書かれている情報を理解し、中心となる語や文を見つけ要約する力に課題が見られる。 ●中心となる語や文を活用して文章を書く力に課題が見られる。	・大切な語や文を見つけさせる活動を通して、文章の中でどんなことが述べられているかをとらえられるようにする。 ・要約の力を伸ばすために、中心となる語や文を活用して、自分の言葉で文章にまとめることができるようにする。
我が国の言語文化にに関する事項	平均正答率は市の平均とほぼ同程度である。 ○漢字の部首を選択する問題では、正答率が80%を超えている。	・新しく学習した漢字は、へんとつくりをとらえながら書くことができるよう呼びかけを行う。 ・文章を書くときに学習した漢字を使うように指導する。また、同じへんやつくりをもつ漢字を調べさせたり、漢字の成り立ちをとらえさせたりする活動を行うことで、漢字に親しむ態度を育てる。 ・漢字辞典を日常的に使用するよう指導する。
話すこと・聞くこと	平均正答率は市の平均よりやや低い。 ○話合いの内容を聞き取ることができている。 ●話の中心を明確にするための話し手の工夫をとらえることに課題が見られる。	・話の要点をメモする活動を取り入れ、中心となる語や文を聞き取り、話の内容を捉える力を育てていく。 ・分かりやすい話し方について学ぶため、友達の発表を聞いてよい点を探す活動を多く取り入れる。 ・友達から聞いた内容と自分の知っていることを比べながら考えをまとめることで、よりよい話合いの仕方が身に付くよう指導を行う。
書くこと	平均正答率は市の平均とほぼ同程度である。 ○段落の役割を理解しながら、指定された長さで自分の考えを書くことができている。 ●文章に含まれている内容を理解し、それに対する自分の考えとその理由を明確に書くことに課題が見られる。	・書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落を作るようにさせる。 ・段落相互の関係に注意しながら、分かりやすい文章の構成を考える指導を行う。 ・調べたことをもとに文章にまとめて友達と見せ合うなどの活動を行うことで、友達の文章の良さを見つけることができるようにする。
読むこと	平均正答率は市の平均よりやや低い。 ●叙述をもとに文章の内容をとらえることに課題が見られる。 ●説明文の内容を読み取ることに課題が見られる。	・物語文では、登場人物の気持ちや場面の様子などを文章中の表現から読み取る力を育てていく。 ・説明文の内容を読み取る練習を増やし、大切な語や文をとらえる指導を行う。 ・書き手の考えが書かれている場所を探し、読み取ったことを文章にまとめる指導を行う。

宇都宮市立清原東小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	71.7	73.5	73.6
	図形	78.7	79.0	79.1
	測定	65.2	71.1	69.8
	データの活用	48.0	58.4	59.2
観点	知識・技能	72.8	75.0	75.0
	思考・判断・表現	56.0	62.1	62.1
	主体的に学習に取り組む態度	62.9	71.4	71.6



★指導の工夫と改善

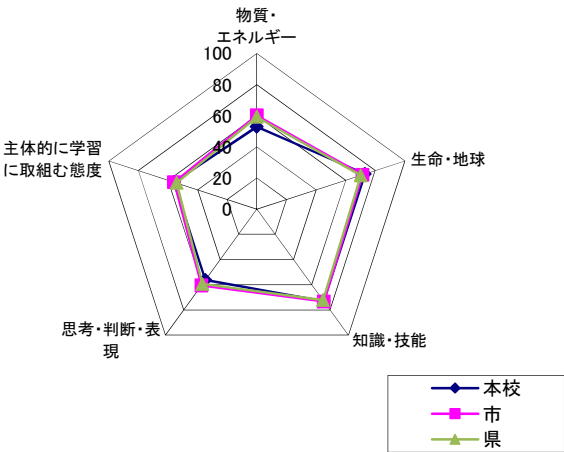
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、市の平均とほぼ同程度である。 ○整数や小数、分数のしくみや大きさ、数直線に表すことは理解できている。整数や分数の計算も正確にできる児童が多い。授業始めや終わりでプリントや一人一台端末による計算練習の成果であると考えられる。 ●整数から小数を引く繰り下がりの計算や分からない数を口として式を書く問題は、数直線から式に結び付けることに課題が見られる。 ●かけ算の筆算に出てくる数の意味を選択する問題では、かける数として十の位を選ぶところで、一の位を選択した回答が見られた。 ●かけ算の計算の工夫や文章問題で商の余りを切り上げる理由を書くなど、思考を記述することに課題が見られる。	・数のしくみを理解させるために、具体物や数直線などの教具を工夫する。 ・繰り返し計算練習に取り組めるよう、プリントや一人一台端末などの活用を継続していく。 ・筆算の途中の計算での位や計算の工夫について考える時間を大切にしていく。 ・文章問題については、数直線や言葉から式に表すことや実際の場面を想像させる助言を工夫したり、答えに至るまでの考えを書く学習を取り入れたりしていく。
図形	平均正答率は、市の平均とほぼ同じである。 ○球の半径から、球の入った箱の辺の長さを求める問題は、80%以上の正答率だった。具体物を使って指導を行った成果であると考えられる。 ○コンパスとものさしを使い正三角形を描く問題は、80%以上の正答率だった。作図の練習を重ねた成果であると考えられる。 ●半径8cmの円を選択する問題の正答率は74%と、市の正答率より3ポイント低い。誤答として、直径8cmの円や半径4cmの円を選択する回答が見られた。質問内容と図を結びつけることに課題が見られる。 ●正三角形を描く問題では、無回答がいくつか見られた。	・半径の2倍の長さが直径であることや、円のどの部分が半径や直径なのかなど基本的なことをしっかりと理解させ、色々な問題を解いていくことで定着させたい。 ・コンパスやものさしを使って三角形を描く問題では、児童が描く手順を理解し、記憶し、児童自身の力で描くことができるように、励ましながら粘り強く取り組ませていきたい。また、辺の長さや角の大きさに気を付けて描くことができるように助言していく。
測定	平均正答率は、市の平均より低い。 ○道のりを答える問題の正答率は82%である。 ○果物の重さを求める問題では、はかりの目盛りを読み取ることはできている。単位の前にk(キロ)がつくと、もとの単位の1000倍になることを選択する問題の正答率は、市の平均より高く、60%である。 ●ある時刻から一定時間が経過する前の時刻を求める問題では、2回さかのぼるところを1回しかさかのぼっていない回答が見られた。また200秒を分と秒で表す問題では、2分20秒を選択した回答が見られた。単位がつく計算に課題がある。 ●はかりの目盛りを読み取ってかごに入った果物の重さを求める問題では、かごの重さを引いていない回答が見られた。	・道のりは直線距離ではなく、道に沿って測った距離という意味を確認する。 ・時刻や重さの問題では、基本的な内容の理解はできている児童が多いので、何を問われているのか、図だけでなく言葉について注意して読み取ることを助言していく。 ・単位の伴う計算練習を継続していく。
データの活用	平均正答率は市の平均より低い。 ●2種類の棒グラフを比べ、わからないことを選択する問題や1日盛りの大きさの違いに着目して答える問題、日曜日と月曜日の夕方に通った自動車の台数の違いを答える問題の正答率は50%前後である。グラフを比較し、質問に答えることに課題が見られる。 ●問題が後半に出題されているためか、無回答の割合が他の問題より高かった。	・2種類の棒グラフについて比較したり読み取ったりする力をつけていきたい。 ・棒グラフを見て、分かることを記述する学習や、教科書の発展問題「学んだことを使おう」の活用をしていく。 ・前半の問題を解く速さなどの時間配分を日頃から助言し、最後まで取り組めるように励ましていく。

宇都宮市立清原東小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	52.9	60.2	59.2
	生命・地球	73.0	71.3	70.3
観点	知識・技能	73.1	73.4	72.3
	思考・判断・表現	56.4	60.6	59.6
	主体的に学習に取り組む態度	56.0	55.9	54.2



★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	平均正答率は、市の平均より低い。 ○電気を通す物と通さない物、光を重ねた部分の明るさと温度の様子、磁石につく物とつかない物などの理解はよくできている。 ●磁石と物の距離による磁石が物を引き付ける力を推測したり、実験の予想が正しい場合に得られる結果を推測したりすることに、課題が見られる。 ●ソーラークッカーで料理ができる理由を説明すること、糸電話の糸をつまむと音が伝わらない理由を説明すること、容量の大きい飲料の容器にプラスチックが使われている理由を実験の結果から推測し説明することなど、思考を記述することに課題が見られる。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・個人で実験したり、観察したりした内容はよく理解できているので、今後も一人一人が進んで実験や観察ができるよう場と方法を工夫していく。 ・「①学習問題→②予想と計画→③実験→④結果→⑤考察→⑥まとめ」の学習過程に基づいて学習を進める。その際、②では自分たちの予想を確かめる実験計画を行わせたり、予想が正しければ「結果はこうなる」まで考えさせたりし、全体で出し合い、比べ合いながら共有できるようにする。 ・予想したこと、結果から分かったことなどを児童の言葉で書かせることを積み重ねる。学習のまとめでは、学習問題に対するまとめを、児童の言葉で書かせるようにする。
生命・地球	平均正答率は、市の平均よりやや高い。 ○虫めがねの使い方や野外観察の仕方などをよく理解し、観察記録からの読み取りができている。 ○こん虫の育ち方やこん虫の体のつくりについてよく理解できている。 ○日なたと日かげの地面の明るさや湿り具合の違いをよく理解し、地面の温度変化のグラフの読み取りがよくできている。学校周辺の豊かな自然を生かして一人一人が主体的に学習している成果であると考えられる。 ●正午にできる影の方位の理解に課題が見られる。	・今後も、学校周辺の豊かな自然を最大限に生かし、児童一人一人が主体的に学習できるようにする。 ・学習問題を明確にし、その予想をしっかりと行う。そして、予想を確かめるためにはどんな実験や観察をすればよいか十分に考えさせるとともに、「予想が正しければこうなるはずだ」を常に意識させて実験や観察を行わせる。

宇都宮市立清原東小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「自分にはよいところがあるとおもう」「しょう来のゆめや目標をもっている」と回答した割合が市や県の平均より高い。自分自身に向き合いながら、前向きに生活している様子がうかがえる。

○「家の人と学校でのできごとについて話をしている」「家の人としょう来のことについて話すことがある」「家の人と学習について話をしている」と回答した割合が、市や県の平均よりやや高い。また「家の人は、あなたがほめてもらいたいことをほめてくれる」と回答した割合が90%と、市や県の平均に比べて高いことから、家族との会話があり良好な関係を築くことができていると考えられる。

○「家で、学校の宿題をしている」と回答した割合が、市と県の平均よりやや低い。一方、「家で、学校の復習をしている」「家で、テストで間違えた問題について勉強をしている。」と回答した割合が、市や県の平均に比べてやや高い。家庭で学習をする習慣や家庭での学習方法について称賛し、さらに習熟(宿題・ドリル)と自主学習(授業の復習・予習など)に取り組みせるようにしたい。

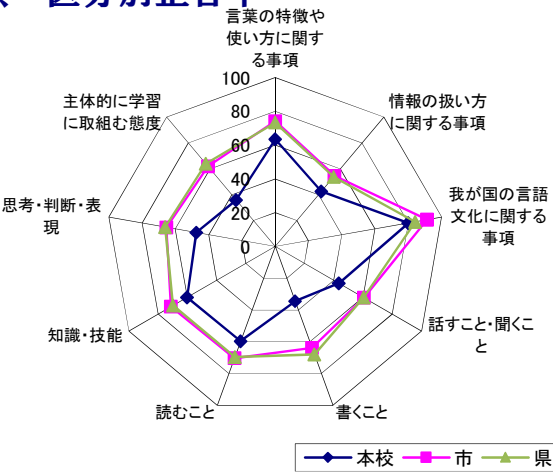
●テレビやビデオ、DVDなどの視聴覚機器の使用時間は、市や県の平均より高い。情報機器の適切な使用方法について、学級活動や朝の学習の時間を使って情報モラル教育を行うとともに、家庭でも使用時間について話し合いをしていただき、各家庭でのルールを守って使用できるように啓発していきたい。

●学校の授業以外の平日の読書量は、「10分より少ない」と回答した児童が16%、「全くしない」と回答した児童が24%おり、全体の40%になる。これは市や県の平均に比べ高い。これからも「清東チャレンジブック」の取組や、朝の「読書タイム」の推進を行い、読書の習慣化を図っていく。

宇都宮市立清原東小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	63.5	74.2	73.3
	情報の扱い方にに関する事項	42.5	54.7	53.8
	我が国の言語文化にに関する事項	80.0	91.2	84.2
	話すこと・聞くこと	43.5	60.6	60.4
	書くこと	34.4	63.8	68.0
	読むこと	59.6	70.4	69.6
観点	知識・技能	60.2	71.3	69.9
	思考・判断・表現	47.5	65.4	66.1
	主体的に学習に取り組む態度	36.0	61.9	64.0



★指導の工夫と改善

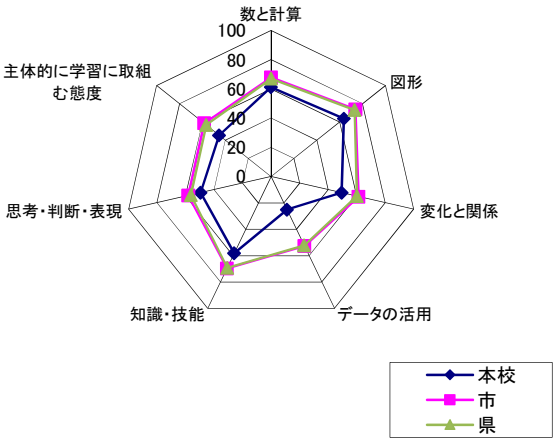
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	平均正答率は、市の平均より低い。 ○第4学年に配当されている漢字を正しく読むことは、概ねできている。 ●第4学年に配当されている漢字を正しく書くことに課題が見られる。 ●連用修飾語の理解や正しい使い方に課題が見られる。	・学習した漢字を日常的に使うよう作文指導などの機会を生かして指導していく。また、漢字練習をする際には、さまざまな熟語や読み方で行うよう指導し、語彙を増やせるようにする。
情報の扱い方にに関する事項	平均正答率は、市の平均より低い。 ●漢字辞典の使い方について課題が見られる。 ●情報と情報との関係について理解し、段落相互の関係を捉えることや、情報と情報の関係に理解し、理由や事例などを挙げながら話すことについても課題がある。	・朝の学習や授業の始まるの時間などに、漢字辞典の使い方について復習をする。 ・説明文の構成について構造的な板書をする事で、段落と段落の関係性をつかめるようにする。また、理由や事例を表す文章を色をつけて分類するなどして、文章の構成を理解できるようにする。
我が国の言語文化にに関する事項	平均正答率は、市の平均より低い。 ●ことわざの理解や正しい使い方に課題が見られる。	・ことわざを中心とした意味調べを行ったり、ことわざを用いた作文を書かせたりすることで、言語文化に関する能力を高めていく。
話すこと・聞くこと	平均正答率は、市の平均より低い。 ○話し手が伝えたいことの中心を捉えることは概ねできている。 ●司会の役割を果たしながら話し合い、意見の相違点に着目して考えをまとめることに課題が見られる。	・話し合い活動をする際には、相手の考えをメモするよう指導していく。自分と相手の意見の相違点に気づけるよう、メモ用紙の上で仲間分けするなどさせるなどして、意見の内容を比べられるようにする。
書くこと	平均正答率は、市の平均より低い。 ●指定された長さで文章を書くこと、段落の役割について理解し、2段落構成で文章を書くこと、自分の考えとそれを支える理由を明確にして文章を書くことなど、条件に合わせて文章を書くことに課題が見られる。	・作文指導をする際には、下書きメモの段階において内容のまとめごとに分けて考えるよう指導したり、理由や事例などの順序性をメモにまとめさせたりすることで、自分の意見やその理由が明確で、且つ、段落ごとに整理された文章を書くことができるようにする。
読むこと	平均正答率は、市の平均より低い。 ●登場人物の気持ちの変化や情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像することに課題が見られる。	・場面が変わったことによっておきる時間の経過や登場人物の気持ちの変化について、登場人物ごとの気持ちの変化をまとめたり、それを比べながら読み取らせたりする。特に高学年においては、情景に登場人物の心情が込められていることが多いので、その点においても指導し、様々な視点で物語が読めるようにする。

宇都宮市立清原東小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	61.2	67.8	67.0
	図形	63.7	73.9	73.1
	変化と関係	49.6	61.4	60.2
	データの活用	25.0	52.7	52.1
観点	知識・技能	58.2	69.7	69.2
	思考・判断・表現	49.5	58.1	56.3
	主体的に学習に取り組む態度	45.3	58.5	56.7



★指導の工夫と改善

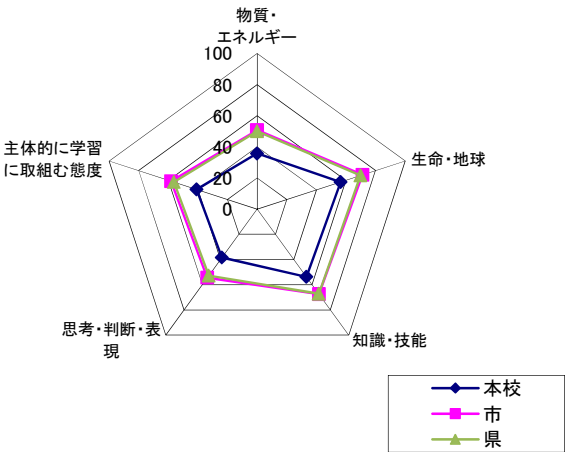
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、市の平均より低い。 ○わり算・計算の決まりについて、除法の計算の仕方を工夫して暗算することがよくできている。 ○小数第一位×整数の計算ができている。 ●四則の混じった式の計算順序の理解に課題が見られる。 ●図を使って基準量を求めるための除法の立式をすることに課題が見られる。	・計算ドリルやプリントで繰り返し計算の練習を行ったり、ミニテストを実施したりして、計算力の向上を図る。 ・具体的な場面を想定して立式をしたり、言葉の式を意識させてから数値に置き換えるなどして正確に立式できるよう、繰り返し指導する。四則計算についても正しく計算できた時とできなかったときの違いを示すなどして理解の向上を図る。 ・日常生活の中で、およその数を求める場面を設定したり、概数を使って物事を判断する問題を取り入れたりすることで、概数で表すことの良さや目的を理解させる。
図形	平均正答率は、市の平均より低い。 ○長方形の面積を求めることは、できている。 ●1000円札のおよその面積を選ぶことは、課題が見られる。 ●四角形の辺の長さの性質の理解についても課題が見られる。	・四角形の性質について振り返る機会を多く設けることで、正しく理解できるようにする。合わせてその特徴について日常生活で活用できる場面では意図的に児童に特徴を述べさせるなど、意識する機会を多く設ける。
変化と関係	平均正答率は、市の平均より低い。 ○伴って変わる2つの数量の一方から、もう一方の値をもとめることは、概ねできている。 ●伴って変わる2つの数量の関係を式に表すことは、課題が見られる。	・問題文から読み取ったことを図や式、表、数直線等に表示して説明し合う活動を取り入れる。 ・比較量や基準量、倍を問う問題では、式だけでなく、教師が数直線や図を用いて説明したり、児童に説明させたりすることで、改善を図る。 ・分かったことや考えた理由など、児童が自分の言葉で書く場を意図的に設定し、記述して解答することに慣れるようにする。
データの活用	平均正答率は、市の平均より低い。 ●折れ線グラフと棒グラフの読み取り、二次元表の読み取りの理解は、課題が見られる。 ●2つの折れ線グラフを読み取り、それを根拠に理由を説明することは、無回答が見られるなど、課題である。	・グラフの読み方について宿題や朝の学習で繰り返し指導することで定着を図る。また、社会や理科などの他教科との関連を図りグラフを読み取ったり描いたりする活動を多く取り入れる。 ・分かったことや考えた理由など、児童が自分の言葉で書く場を意図的に設定し、記述して解答することに慣れるようにする。

宇都宮市立清原東小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	35.8	50.8	50.0
	生命・地球	56.4	71.1	69.8
観点	知識・技能	53.8	67.6	67.2
	思考・判断・表現	38.5	54.5	52.9
	主体的に学習に取り組む態度	41.0	58.1	56.2



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	平均正答率は、市の平均より低い。 ○「物の温度と体積」では、実験の結果をもとに手作りの噴水の原理を説明する問題で市の平均を上回っている。 ●「物の温まり方」では、電車の冷房と暖房の吹き出し口の位置が異なる理由を空気の温まり方をもとに説明するなど、思考力に課題が見られる。	・日々の学習で基礎・基本を繰り返し学習し、定着を図っていくようにする。理科で使用する用語についても繰り返し指導していくことで、定着が図れるようにしていく。 ・日々の生活で乾電池を使う時に直列つなぎや並列つなぎについて触れ、その特徴について考えさせ、学習したことが生活にも生かされていることに気付かせる。
生命・地球	平均正答率は、市の平均より低い。 ○グラフからヘチマのくきの伸びと気温の変化を読み取り説明する問題では、市の平均を上回っている。 ●「動物の体と運動」では、腕を伸ばしているときの筋肉の様子を説明する問題で、「ちぢむ」と「ゆるむ」という言葉を正しく理解していなかったり、適切に使うことができなかったりした誤答が見られた。	・日々の学習で基礎・基本を繰り返し学習し、定着を図っていくようにする。理科で使用する用語についても繰り返し指導していくことで、定着が図れるようにしていく。 ・理科学習全体を通して課題の発見、予想、実験、考察などの問題解決のステップをしっかりと踏むことにより、直接体験を重視し、実感を伴った理解がなされるようにしていく。 ・満月や半月の動きをボールや模型を使って繰り返し復習し、定着を図るようにする。 ・学習の仕方・学び方について再確認し、ノートを中心に学習したことをまとめていけるよう支援していく。

宇都宮市立清原東小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「毎日、朝食を食べている」と回答した割合は90%を超えており、「朝食はみがきががんばり週間」の取組の成果と考えられる。今後も、家庭と連携し、基本的な生活習慣の定着を図っていききたい。

○「将来の夢や目標をもっている」と回答した割合は、市や県の平均より高いことから、希望をもって生活している児童が多いことが分かる。「将来の夢コーナー」への掲示や「ふれあい発見ラリー」など、キャリア教育に関する活動の成果と考えられる。家庭においても、将来について話し合う時間が確保できるよう啓発していく。

○「算数の授業の内容はよく分かる」と回答した割合は、市や県の平均を上回っている。また、「算数が好き」と回答した割合も90%を超えている。習熟度別学習による少人数指導や、計算ドリルや学習プリントなどを活用した反復練習を行ったことが、児童の自信につながったと考えられる。

●「家で、学校の授業の予習をしている」「家で、学校の授業の復習をしている」と回答した割合がともに46%であることから、自主学習の進め方についての指導が必要であることが分かる。テストでまちがえた問題について勉強したり、決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしたりできるような学習習慣の育成に努めていきたい。

●「学校の宿題は、やりたくなる内容だ」「勉強しておもしろい、楽しいと思うことがある」と回答した割合が低いことから、児童の学習意欲をそるような学習内容を提供できるように努めていく必要がある。また、折りに触れて、学ぶ意義や楽しさについても伝えていきたい。

●「ふだん、1日当たりどれくらいの時間、テレビやビデオ・DVDなどを見たり、聞いたりしますか」という質問に対して、「2時間以上、3時間より少ない」と回答した割合が、市や県の平均より高く、30%近い結果となった。また、「テレビゲーム」をしている時間についても、同様の結果であった。家庭学習の時間確保のためにも、家庭と連携して、生活習慣の見直しを図っていききたい。

宇都宮市立清原東小学校（第4・5学年共通） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
ICTを活用して児童が主体的に学習に取り組む授業の工夫	学習過程での情報収集、整理分析、情報共有、表現するといった学習場面に応じたICT活用の工夫。 ・一人一台端末を活用した協働学習での対話的な学び合い。 ・考えや調べたことを提示しながらの話し合い活動。	・「授業ではクラスの友達との間で話し合う活動をよく行っている。」と回答した割合が4年生は72.0%、5年生は75.6%であった。市・県の肯定的割合をやや下回った。 一人一台端末などのICT機器も活用し、話し合い活動を活発に行うなど協働学習による学び合いを深めたい。
家庭学習の習慣化に向けた指導の工夫	6月と11月と2月に「家庭学習強化週間」を実施し、「家庭学習カード」に学習時間を記入したり、学習内容を記入したりするほか、保護者の励ましや助言などを書いてもらったりして提出するよう指導する。	・「家で、自分で計画を立てて勉強している」と回答した割合は、4・5年生ともに県や市の平均を上回った。しかし「家で、学校の授業の予習・復習をしている」と回答した割合は、5年生で県や市の肯定的割合を下回った。